

# 社会保険労務士からの三方一両得だより

令和6年3月20日 第174号

## 小惑星探査機「はやぶさ」の講演会に行ってきました

上三川町中央公民館がこの春に閉館することになりました。そのお別れ講演会が開催され、栃木市出身で「はやぶさ」「はやぶさ2」のプロジェクト中心メンバーを務められた、JAXAの吉川真准教授が登壇されました。

「はやぶさ」は様々なトラブルにより地球への帰還がほぼ絶望視されていた状況から、様々なバックアップ機能を駆使して、見事にミッションを完遂したことは皆さんご存知だと思います。



そんなトラブル対応の現場にいた吉川先生だからそのお話は、非常に臨場感があり、とても楽しく聞かせていただきました。

講演会最後に、探査機のセカンドミッション(当初の目的を果たした後の、宇宙空間にある探査機を利用した追加研究)について、質問させていただいたのも良い思い出になりました。

記者会見の映像でご存知の方も多いかも。

先生はしきりに「若い方には未知のものに興味を持って挑戦して欲しい」とおっしゃっていましたが、会場の平均年齢はどう見ても60代後半を超えていました。せっかくの機会なのに子供の姿が殆んど無く勿体ないと妻に伝えると、「きっと学校でいろんな講演会が開かれているんだろうから、いいんじゃないの」と、相変わらずクールなのです。



ステッカーのお土産をいただきました。



見事にパツリ。

夏野菜の苗づくり用に先月購入したミニ温室ですが、春の嵐で倒れてしまいました。底に瓦を二枚敷いていたのですが、自然の力にはかたがた増量してからは、大丈夫なようです。

当然芽を出し始めた夏野菜の種は全滅です。まあ見通しの甘かった自分の責任ですので、四の五の言う前に、淡々と蒔き直しをしました。定期的に、まだ十分に間に合はずです。

我が家の畑

## 求職者とのミスマッチ解消につながる職場情報提供の手引きが策定されます

働き方のニーズが多様化し、求職者が求める情報を提供してミスマッチ解消につなげることが重要になっています。

一方で、厚生労働省はヒアリング等の結果、一度に提示される情報量が多いと求職者が煩雑に感じること等が確認されたことから、情報は求職者等の求めに応じて柔軟に提供していくことが適切として、求職者への職場情報提供に当たっての手引きの策定が進められています。

案では、求職者等が求める情報として「職場環境に関する情報」ではテレワーク、女性活躍、男性育休取得率、育児休業、短時間勤務の状況等、「労働条件・勤務条件」では賃金(昇給等の中長期的な見通し含む)、所定外労働時間(残業時間)、有給休暇取得率等、が挙げられています。

掲載する情報量については、採用サイトや求人票には募集に当たって必要十分な情報のみを開示し、人的資本に関する情報は求職者等が自身の関心に応じて閲覧できるようにリンクを設置して別のページに掲載する、といった工夫の仕方が示されています。

ウェブサイトの整備や掲載する情報更新に係る負担が懸念される中小企業向けの方法として「しょくばらぼ」の活用が示され、ハローワークインターネットサービスと連携して無料で情報を閲覧できる、といったメリットが挙げられています。



厚生労働省の労働政策審議会で取り上げられた議題をご紹介します。当事務所のお客様には、「求人票には沢山の情報を記載してください。スカスカの求人票ではこちらの熱意は伝わりません」とお伝えしてきました。もちろん当事務所の求人を出す際にも、いろいろなメッセージを記載しています。

多数の応募があったこともあれば、全く反応が無い場合もありました。募集した職種や賃金の高低によっても当然結果は変わってしまうから一概には判断できませんが、やはりスカスカの求人票では応募する気にはならないと思います。ちょうど良い加減を目指すことが必要だと再認識しました。